

主催：日本ソルフェージュ研究協議会

第1回 ワークショップ

模倣授業を通してソルフェージュを考える

毎年9月のシンポジウム・シリーズでは大学におけるソルフェージュ、導入期のソルフェージュについて提起し討論してまいりましたが、今回の新企画ではより具体的にワークショップとしてソルフェージュ授業の実践をお届けします。教育現場の一線で活躍されている講師の授業が、どのような視点で行われているのかを皆様に体験していただき、ソルフェージュの可能性と問題点を共に考えていきたいと思います。

日時：2014年9月7日(日) 午後2時開演
会場：国立音楽大学 合唱スタジオ



今村 央子 (いまむら ひさこ)

東京藝術大学作曲科卒業、同大学院ソルフェージュ科修了。伊藤国際教育交流財団奨学生として渡仏。パリ国立高等音楽院エクリチュール科、ピアノ伴奏科卒業。帰国後は作曲家=ピアニストとして独自の活動を展開している。近著に『「音楽づくり」成功の授業プラン』（酒井美恵子共著 2012年）、『「創作」成功の授業プラン』（酒井美恵子共著 2012年）等。現在国立音楽大学准教授、日本ソルフェージュ研究協議会理事。

◆実作品による総合的聴覚形成の実践

近年、フォルマシオン・ミュージカルの普及にともない、聴音の授業でも、音楽をより多角的かつ立体的に聴き取るためのアプローチが増えていると感じる。模倣授業では、音高とリズムを書き取る訓練に加えて、フレーズ、構成、和声、音色、強弱、アンサンブルなどを聴き取り、演奏として再現する。様々な要素の聴取を学生自身が統合し、総合的な聴覚形成につなげることを目標とする。



高橋 千佳子 (たかはし ちかこ)

東京藝術大学音楽学部作曲科卒業。同大学院ソルフェージュ科修了。現在、東京藝術大学および同附属高校、日本大学芸術学部、東京音楽大学、国立音楽大学、各講師（ソルフェージュおよびCM関連の授業）。成城ソルフェージュ研究会代表、日本ソルフェージュ研究協議会理事。CM作曲に携わり35年になる。著書に『視唱スタディーズ・ハーモニとともに』、『音楽史からみたリズム・スタディ』（共著、全音楽譜出版社）。本名：高橋和江。

◆授業「視唱」

音をとりにくい人々への視唱指導法には種々あるが、相対音唱の中でも音階の中の度数を考えて音をとる方法を実践してみる。音階音の度数を階名で歌えば移動唱法となるが、ここでは音名唱法とする。C durから出発して、G:、F:、D:、B:と1つずつ調を獲得していくが、今回は、生徒の苦手な調を取り上げてみる。1つの調内のあらゆる音を、度数を意識することで自在に歌えるようにする exerc.、主要三和音程度の和音アルペジオ唱の exerc. 等の後に課題を歌ってみる。

▼入場料：

一般 3,000円
学生 1,000円
賛助会員 1,500円
(会員無料)

▼問い合わせ先：

日本ソルフェージュ研究協議会事務局
Tel. 090-5566-8567
E-mail : ni-sol-ken@island.dti.ne.jp
<http://www.ni-sol-ken.com/index.html>

